

✈️ 航空宇宙の取り組み2010 ✈️

■「はやぶさ」帰還カプセル大樹特別展示

「はやぶさ」帰還カプセル大樹特別展示実行委員会（委員長大樹町長）主催、北海道十勝総合振興局などの後援、宇宙航空研究開発機構の協力により、札幌、釧路に続いて「はやぶさ」帰還カプセル特別展示～「はやぶさ」が大樹にやってくる！～が大樹町で実施されました。

初日の2月23日は、10時からオープニングセレモニー、町内小中高校生の見学が行われ、午後5時から一般公開、24日から27日は午前10時から午後8時まで公開されました。

来場者から、こんな小さな町で本物のカプセルに会えるなんて。このカプセルでイトカワの砂を持ち還ったのか。など感嘆の声が多く寄せられました。

期間中、コスモスホール（504席固定）で映画、BACK TO THE EARTH、「祈り」小惑星探査機はやぶさの物語を上映、ロビーでは「北海道の宇宙開発展」、関連グッズの販売コーナーも。述べ8,293人の来場をいただき、町内はもとより道内各地から多数お越しいただきました。

宇宙のまちづくりを進める当町の理解を深め、子どもたちの夢をはぐくむ絶好の機会となりました。



■「はやぶさ」帰還カプセル大樹特別展示記念講演会

「はやぶさ」帰還カプセル大樹特別展示実行委員会（委員長大樹町長）主催の「はやぶさ」帰還カプセル大樹特別展示記念講演会が、2月22日（火）午後6時から大樹町生涯学習センターで開催されました。翌日から始まる小惑星探査機はやぶさ帰還カプセル大樹特別展示に合わせての開催。

講師にJAXA宇宙科学研究所 山田和彦助教をお招きし、「はやぶさが宇宙から還ってきた」題し、60億キロの宇宙の旅から帰還したはやぶさカプセルの回収を担当した講師の経験話を話していただきました。講師は以前、大気球実験班に所属しており、大気球実験で観測機器を回収する技術が今回の回収にも大いに役立った。オーストラリアの砂漠に降下後1時間で発見できたと話し、回収班の様子を収めたビデオも公開し、臨場感ある回収の様子に約150人の出席者は、興味深く見入っていました。



■大樹中学校「はやぶさ」帰還カプセル展示記念講演会

町主催による大樹中学校「はやぶさ」帰還カプセル展示記念講演会が、2月4日（金）午後2時30分から大樹中学校で、小惑星探査機はやぶさカプセルの開発を担当されたIHIエアロスペース(株)森田真弥宇宙技術部宇宙利用技術室主幹を講師にお招きし、「小惑星サンプルから探る太陽系誕生の謎」と題してご講演いただきました。

太陽系が誕生して地球に生命が生まれたのは奇跡的なこと。小惑星は太陽系誕生のころの姿を止めている。はやぶさカプセルは、アブレータという、溶けながら内部を守る技術で大気圏での熱をしのいだり、最後はパラシュートを開き電波を発信して位置を知らせた。皆さんの中から宇宙開発を目指す人が一人でも出てくれたらうれしいと話しました。

講演会には大樹中学校全生徒と一般合わせて170



名が参加しました。

■フォーラムin大樹 ひらけ！宇宙への扉

12月10日（金）午後6時から生涯学習センターでフォーラムin大樹 ひらけ！宇宙への扉 が開催されました。大樹町と十勝毎日新聞社の主催、NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター

（HASTIC）伊藤献一理事長が「北海道スペースポート計画」～北海道が日本の航空宇宙産業を変える～と題して基調講演、十勝沿岸の広大な平野は多目的宇宙港に最適、20～30年後の日本の航空宇宙産業のために今から手だてが必要、今ある滑走路を4000mに延長するべきとエールを送りました。

パネルディスカッションでは、伏見悦夫大樹町長、大滝誠一HASTIC事務局長、永田晴紀北大大学院教授、福岡孝道大樹スペース研究会事務局長をパネラーに、小野寺裕十勝毎日新聞社編集局長をコーディネーターに、伊藤献一HASTIC理事長をアドバイザーに北海道の宇宙開発を語り合いました。

伏見町長は25年間航空宇宙産業誘致に取り組んできた想いを、大滝事務局長は大樹町で実施したCAMUIロケット回収型有翼機実験等の紹介、永田教授はこれまでのCAMUIロケットの実験とこれからの開発予定を、福岡事務局長は航空宇宙に対する地域の取り組みとして、子どもたちに夢を抱かせる絵画コンクールなどを紹介しました。

会場を埋めた町内外約150名の参加者は、大きな夢のある話しに大いに盛り上がりました。



■ふるさとの人講話2010

12月10日（金）午後2時から大樹高校で「ふるさとの人講話2010」が開催されました。

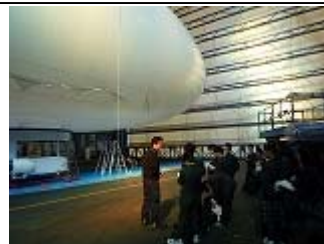
講師に大樹町と連携協力協定を締結している宇宙航空研究開発機構（JAXA）から宇宙科学研究所宇宙飛行システム研究系山田哲哉准教授をお招きし、「はやぶさの帰還」～カプセルの開発から回収まで～と題し、今年6月7年間60億キロの宇宙探査から小惑星イトカワの微粒子を持採取して帰還した「はやぶさ」のカプセル開発から、オーストラリアでの回収までのさまざまなエピソードや、来年2月に大樹町で展示されるカプセルの見どころなどを話し、全校生徒153人と一般来場者を含め約230人が興味深く聴講しました。



■札幌日大中学校1年社会見学旅行

10月6日（水）札幌日本大学中学校（北広島市）1年73名が社会見学旅行の一環で町多目的航空公園を訪れ、組み立て中の飛行船や大気球指令管制棟を見学、JAXA無人機・未来型航空機チーム佐々修一氏の講演を聴き、飛行機の原理や未来型航空機の開発状況などを聴き、航空技術を学びました。

講演のあと、配布された紙飛行機を滑走路で飛ばし、宿泊地の足寄町に向かいました。



■第61回国際宇宙会議(IAC)プラハ大会

9月27日～10月1日までチェコ共和国プラハで開催された第61回国際宇宙会議にNPO法人北海道宇宙科学技術創成センター（HASTIC）が出展し、大樹町も協力しま

した。

出展ブースでは、北海道スペースポート構想や大樹町多目的航空公園の紹介パネル、CAMUIロケットスケールモデル、ビデオ上映などの他、簡易無重力実験装置EZ-SPACEの実演など盛りだくさんの内容で、来場者の関心を集めました。

HASTIC伊藤理事は「1,600本用意したロゴ入り割り箸、2,000部のパンフレットともに全て配布できた、来場者の関心も高く有意義だった」と話していました。



■サイエンスパーク2010

8月11日(水) サッポロファクトリー(札幌市中央区)を会場にサイエンスパーク2010(主催:北海道他)が開催され、NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC)、十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会とともに大樹町も共同で出展しました。私たちのブースでは北海道で行われている航空宇宙の取組みを紹介、大気球の模型、CAMUIロケット展示、簡易微重力実験装置EZ-Spaceの実演、宇宙飛行士気分でフライトスーツを着て記念写真、ペットボトルを使ったロケットの打ち上げ体験などを実施しました。

10時の開場から午後5時の終了まで沢山の親子が訪れて下さいました。主催者によると入場者数は7,200人(昨年5,800人)でした。



■十勝スピードウェイ2010夏祭り

8月8日(日)十勝スピードウェイ2010夏祭り(更別村)の中で、水ロケット製作教室を開催しました。

500cc炭酸飲料のペットボトルを用い、紙でノーズコーン、スカート、フィンを作り外で飛ばしました。

会場の都合でポンピングを10回に抑えて飛ばしましたが、20mほど勢いよく飛び、参加した10名の子もたちは大喜びでした。



■日本水ロケットコンテスト2010北海道地区大会

7月24日(土)大樹町多目的航空公園で日本水ロケットコンテスト2010北海道地区大会が開催されました。

北海道内のYAC分団のうち苫小牧、釧路、余市、大樹から4名ずつの選手が参加、飛距離競技と50m先のターゲットに向けて打つ定点競技を行い、飛距離競技では大樹分団の高橋拓匡君(大樹小6年)が138mで優勝、同分団の篠島翔君(同6



年)が109mで準優勝、定点競技では苫小牧分団の木下舜也君(小5年)が1.73mで優勝、余市分団の星野宏典君(小5年)が2.07mで準優勝、団体では飛距離競技は大樹分団、定点競技は苫小牧分団がそれぞれ昨年に引き続き優勝しました。

優勝チームの上位2名は、9月18日から愛知県で開催される「日本水ロケットコンテスト2010」に出場します。



■2010日本水ロケットコンテスト大樹大会

6月19日(土)町教育委員会と日本宇宙少年団大樹分団(勝海敏正分団長)と大樹町の共催で、2010日本水ロケットコンテスト大樹大会を開催しました。

7月に大樹町で行われる日本水ロケットコンテスト北海道地区大会の予選を兼ねて行われたこの大会は、町内外から40名の小学生が参加、午前中に生涯学習センターで水ロケット製作教室、午後から歴舟川河川公園で飛距離を競う競技会を実施、自作の水ロケットに空気入れで40回ポンピング、ロックを外すと勢いよく水を噴出して飛んでいきます。

100メートルを超える記録が続出し、上位6名に賞状と副賞が手渡されました。優勝は篠島翔(かける)君大樹小6年、記録112.68mでした。

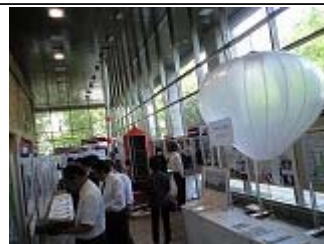
この大会で小学校4年生以上の参加者中、上位4名が7月に大樹町内で行われる北海道地区大会に出場します。



■北海道の宇宙開発展

6月7日~9日まで3日間、北海道庁1階道政広報コーナーで平成22年度北海道の宇宙開発展が開催されました。北海道、NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC)、十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会、大樹町の主催で2007年、2009年に続き3回目の開催。

北海道内の宇宙開発の取組みをパネルや模型、DVDなどで紹介、大樹町からは町内で実施されているJAXA大気球実験に用いる大気球の1/60模型、多目的航空公園周辺の航空写真など、HASTICは道産ロケットCAMUI250実機、簡易微小重力実験装置EZ-Space、50m落下塔コスモトーレのカプセル、北海道スペースポート構想図など、室蘭工業大学からはこの夏実験予定の小型超音速飛行実験機プロトタイプのパネル、北海道工業大学から超小型衛星のパネルなどさまざまな取組みが紹介され、3日間で903人が来場、興味深く展示品に見入っていました。



■銀河連邦 野口聡一宇宙飛行士リアルタイム交信イベント

4月22日(木)銀河連邦の6共和国と国際宇宙ステーション(ISS)に長期滞在中の野口聡一宇宙飛行士をテレビ電話で結び、リアルタイム交信を行うイベントが行われました。

タイキ共和国では、大樹町多目的航空公園内にある、連携協力拠点大樹航空宇宙実験場の大気球指令管制棟会議室に町内外24名の小中学生と保護者など関係者が集まり、午後7時30分から宇宙学校、講師の阪本成一JAXA教授が相模原からISSの話をし、8時30分からはいよいよ野口宇宙飛行士と交信、各共和国から順番に質問をし、タイキ共和国は5番目、大樹小学校2年小島柊斗君は「宇宙で宇宙人に会いましたか?」と質問、野口宇宙飛行士は「あったことはないけどこの宇宙のどこかに宇宙人



がいたら楽しいと思います。」と答えてくれました。

2人目は大樹中学校2年村上理子さん、「宇宙での健康管理はどうしていますか？」に「毎日2時間運動し、よく食べよく寝ること、自己管理が大切」と答え、最後に宙返りをして終了しました。



■タイキ共和国銀河連邦に加盟

宇宙科学研究施設のある5市町が、ユーモアとパロディの精神で交流する「銀河連邦」（本部相模原市）に大樹町も6つ目の共和国として加盟しました。

4月3日（土）相模原市民桜まつりが開催されている相模原市役所前特設ステージで、伏見大樹町長（タイキ共和国大統領）が、5共和国の大統領と共に協定調印式にのぞみ、多くの市民の前で協定書にサインし正式に加盟しました。

タイキ共和国は初めて相模原市民桜まつりに参加したので、大気球実験と歴舟川砂金掘りを紹介しました。

また、物産展ブースでは他の共和国とともに特産品を販売、満開の桜の下3日と4日で46万人が来場し、鮭やツブガイの珍味、シシャモ、チーズ、イモ団子などを販売。初参加の北海道の物産に多くの市民が訪れてくれました。

